

# 『人と地域が躍動するまち』をつくる

あけましておめでとうございます  
市民の皆様におかれましては

希望に満ちた新年をお迎えのこととお慶び申し上げます

昨年は、地方創生の元年にふさわしく、伊万里市の魅力を全国に発信するとともに、市民の皆様の安心と地域の活力の確保、そして、未来への発展の礎を築くことができた一年であったと思います。

悠久の時を経て、自然の恵みを湛<sup>たた</sup>える伊万里湾から伊万里市の変遷を静かに見つめてきたカブトガニが繁殖する多々良海岸一帯が、『伊万里湾カブトガニ繁殖地』として国の天然記念物に指定されました。このことは、50年余りに及ぶ伊万里高校の理化・生物部の調査研究をはじめ、地元の牧島地区や市民の皆様の保護活動の成果であるとともに、本市発展の重点施策として進めてきた伊万里湾開発が自然環境や生態系に配慮した持続可能な取り組みであったことへの評価でもあると受け止めています。

今日、伊万里港の両岸に広がる工業団地には多くの企業が集積し、七ツ島地区では東アジアを中心として海外と直接結ぶ国際コンテナ航路が開設され、九州第4位のコンテナ貨物の取扱港として成長を続けています。10月にはスーパー中核港湾である神戸港とを結ぶ国際フェリー航路を加え、世界中への迅速なコンテナ輸送が可能となるなど、伊万里港のさらなる発展に大きな期待を寄せています。

また、観光や産業活動など地域間の活発な交流に寄与する西九州自動車道については、南波多谷口インターチェンジと山代久原インターチェンジが供用開始となりました。本市が高速交通ネットワークに本格的に組み入れられ、九州の経済や文化の中心である福岡都市圏や近隣都市と直接結ばれたことにより、伊万里湾地域の中核都市としての成長力は飛躍的に高まっています。

地域活性化策としても注目を集めている『ふるさと応援寄附金（ふるさと納税）』については、伊万里ブランドとして名高い伊万里牛や伊万里梨をはじめ、本市ならではの特産品を加えたところ、全国から大きな反響があり寄付額は大幅に伸びています。地域経済への波及効果の拡大の手ごたえも感じており、市民の皆様はもとより市外からの寄付に対する特典の拡充と一層のPRに努めてまいります。



# 地方創生の深化で、



平成28年 年頭のごあいさつ

伊万里市長 塚部 芳和

平成28年は、国と地方が一丸となった地方創生のさらなる深化が求められ、まさに都市間競争が激化する社会潮流のなかで、ゆるぎない信念と先見性をもって市政運営に取り組み、市民の皆様とともに、力強く躍動する伊万里市を築き上げる年にしたいと考えています。

まず、若者が本市に定住するための仕掛けづくりとして、これまでの製造業に加え事務系企業の誘致にも力を入れるほか、インターネットなどの情報通信技術を活用した創業の支援など、若者や女性が持つ多様な能力や個性、創造力を十分に発揮できるような雇用機会の創出に努めてまいります。

また、持続可能な地域づくりとして、町民のボランティアでワゴン車を運行し町の中心部と各集落を結ぶ、波多津町まちづくり運営協議会による公共交通の取り組みを支援します。これは、国が進める『小さな拠点』のモデル事業として実施するもので、成果を見ながら他町へも拡大していきたいと考えています。

観光の振興については、民泊など新しい取り組みも始まっており、これまでの福岡都市圏を中心とする観光戦略の展開に加え、海外からの観光客であるインバウンドへも対応できる環境の整備を進めます。

自然災害や原子力災害への備えとして、災害が発生した場合に主要な情報伝達手段となる防災行政無線の建設に取り組むほか、避難経路となる国道や県道、市道の整備を促進します。特に、玄海原子力発電所の再稼働へ向けた準備が進められる中、引き続き、原子力安全協定の締結と防災体制の強化に取り組んでまいります。

佐賀県ごみ処理広域化計画のもと、県西部地区4市5町により整備を進めてきた広域ごみ処理施設については、『さが西部クリーンセンター』と愛称が決定され1月4日に稼働します。ので、広域連携によるごみ処理の適正化と効率化を図ってまいります。

新年を迎え、決意を新たに、『伊万里市まち・ひと・しごと創生総合戦略』に基づく施策の展開に全力を傾注してまいります。市民の皆様のお一層のご協力を心からお願いたします。

